



THE JAPAN FOUNDATION
2018 - 2019

日本の友人をふやし、 世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて
日本と世界をつなぐ場をつくり、
人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

国際交流基金は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関（日本語国際センター及び関西国際センター）、さらに 25 の海外事務所（うち二つはアジアセンター連絡事務所）をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

文化 文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

言語

海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。

対話

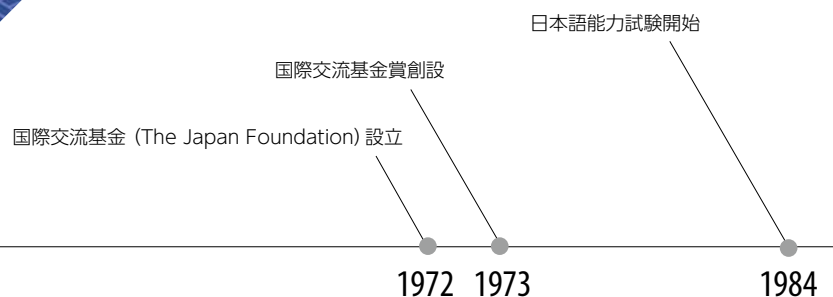
日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。また、世界共通の課題についてのシンポジウムや共同プロジェクトを通じ、有識者同士の交流を促進します。

Field

国際交流基金は、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流の三つのフィールドで事業を展開しています。

History



国際交流基金は、展覧会や舞台公演、国際会議、海外の文化人の招へいなど、文化交流が行われるための機会を、自ら企画し、実現しています。

ORGANIZE

企画する・主催する

SUPPORT

助成する・支援する

文化交流のために活動する人々に、資金の一部を提供したり、多くの人の活動を容易にするツール、機会や場所を提供するなど、文化交流活動を側面から支えます。

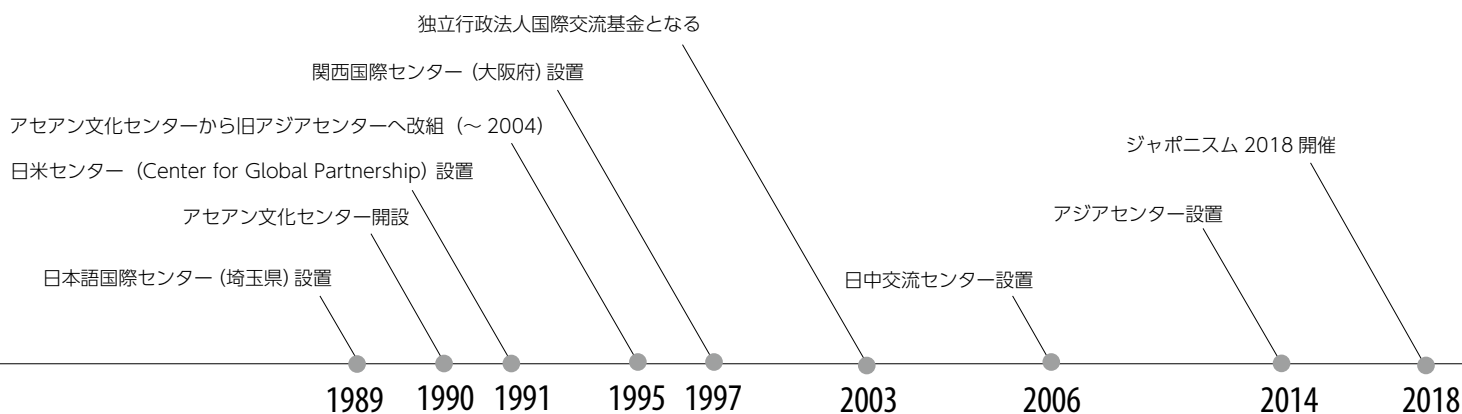
Approach

国際交流基金は、文化の各分野で活動する人々が何を必要としているのかを見極め、いかに良い環境を提供できるかを考えます。機会を創出し、活動をサポートし、継続的な交流が可能となるような環境づくりを行います。

NETWORK・INFORMATION

ネットワークをつくる・
交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や素材を収集したり、人と人のネットワークをつくるなど、国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的に行っています。



国際交流基金

平成 30(2018)年度年報

Contents

P1 国際交流基金の概要

P4 理事長からのごあいさつ

P5 ジャポニスム2018

P9 PICK UP FY2018

国際交流基金の事業

P11 文化 [文化芸術交流]

P15 言語 [海外における日本語教育]

P18 対話 [日本研究・知的交流]

P22 アジアセンター

P26 その他の取り組み

資料編

事業実績

P27 文化芸術交流

P28 海外における日本語教育

P29 日本研究・知的交流

P30 アジア文化交流強化事業

P31 民間からの資金協力

P33 財務諸表

P36 世界の拠点紹介

P37 諮問委員会等/組織図

P38 ご案内

理事長からのごあいさつ

国際交流基金にとって2018年度最大の事業は、日仏友好160年を記念した「ジャポニスム2018:響きあう魂」でした。この事業は、日本が海外で実施した文化紹介行事として質、量ともに過去最大のものです。日仏両国の官民が協力して2年半の準備期間をかけ、一流の芸術を一流の場所でお見せした結果、総計350万人を超える来場者を集め、大きな反響を呼ぶことができました。これは、日本文化が国際社会においていかに大きな魅力を有しているかを実証したものとと言えます。私たちはこの成功に勇気付けられ、今後も文化を通じて諸外国との相互理解の深化に努めていきたいと考えています。

2018年度にはアジアセンターの活動も5年目に入りました。アジアの中学・高校などで日本語授業のアシスタントをしながら、日本文化も紹介する「日本語パートナーズ」の事業は、5年間で1,800人を超える日本の一般市民を現地に派遣し、各国からますます高い評価をいただいています。パートナーズ自身もその経験から多くのことを学び、帰国後もアジアとの懸け橋として活躍しています。芸術文化の分野でも、美術、映像、舞台、音楽、スポーツなどさまざまな領域で、双方向の交流を通じてアジアの新しい文化の創造に貢献しています。

日本語教育については、日本語能力試験の受験者が1984年の開始以来初めて世界全体で年間100万人を突破し、日本語へのニーズの高まりを感じました。これに呼応するように、日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」の利用登録者数が6万人に達しました。また、日本政府による新たな外国人人材の受け入れ拡大政策と連動して、国際交流基金日本語基礎テストの開発に着手し、多文化共生に向けた取り組みを始めつつあります。

国際情勢の複雑化に伴い、学術交流・知的交流を一層活発にする必要性も増しています。日米関係の強化に資する草の根交流事業を立ち上げたほか、対日理解の増進や国境を超えたネットワークの構築を促進する事業を展開しました。

私たちは、国際文化交流の中核的専門機関として国際交流基金への期待の高まりを感じています。「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」というミッションの達成に向けて、業務の公正性の確保と内部統制の向上に努めつつ、内外からの期待に応えられるよう邁進してまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2019年10月

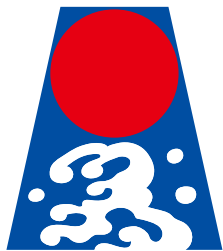
国際交流基金 理事長 安藤 裕康





写真提供: 石井幹子デザイン事務所
 企画・プロデュース 石井幹子 & 石井リーサ明理

A



ジャポニスム 2018

日仏友好160年を記念して、2018年7月から2019年2月にわたって、大型日本文化紹介事業「ジャポニスム2018：響きあう魂」をフランスで開催しました。首都パリを中心とする会場において、公式企画101件、特別企画4件、参加企画204件を「ジャポニスム2018」の枠組みにおいて実施し、日本文化の多様性に富んだ魅力をフランスに紹介しました。



B



C

Photo: Nathalie Vu-Dinh



D © Graziella Antonini 国宝《風神雷神図屏風》 依屋宗達筆 京都・建仁寺蔵



E © Graziella Antonini

- A エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔 日本の光を纏う>
- B 若冲<動植綵絵>を中心に
- C 野田秀樹演出『廣作 桜の森の満開の下』
- D 京都の宝一琳派 300年の創造
- E 茶の湯
- F 野村万作・萬斎・裕基 x 杉本博司『ディヴァイン・ダンス 三番叟』
- G 日本映画の100年
- H 「地方の魅力」-祭りと文化
- I teamLab : Au-delà des limites(境界のない世界)



G © Hiroyuki Sawada



© KOS-CREA 『ディヴァイン・ダンス 三番叟』野村萬斎



H © Yukinobu Kato



Exhibition view, teamLab : Au-delà des limites, 2018, Grande Halle de La Villette, Paris © teamLab

数字で見るジャポニスム 2018

来場者数

3,532,978人

公式企画及び特別企画ではのべ 223万3,237人、参加企画ではのべ 129万9,741人^{※1}の方が来場しました。パリ市の人口約220万人を大きく上回る 350万人超が、ジャポニスム 2018 を通して日本文化に触れたこととなります。

※1 参加企画の来場者数は、2019年3月28日時点での企画主催者の報告値に基づきます。

企画数

さまざまな分野の一級のアーティスト・作品が集結した公式企画の数は 101件^{※2}にのびりました。特別企画4件及び参加企画204件をあわせると、合計309件もの企画がジャポニスム 2018 の枠組みで実施されました。

300 以上

※2 在外公館事業を含みます。

開催都市数

60 以上

公式企画及び特別企画はフランスの 20都市以上、参加企画は 60都市以上において開催されました^{※3}。これらの開催都市は、フランス本土にある 12 の地域圏全てに及びました。首都パリのみならず、ストラスブール、リヨン、トゥールーズ、ニースといった主要な地方都市、そして普段日本文化に触れる機会が少ない地域を含むフランス全土においてジャポニスム 2018 の企画が実施されたことで、フランスにおける日本や日本文化に対する関心を高めることができました。

※3 「都市」はフランスの地方行政単位である「コミューン」を指します。

国際交流基金が実施した公式企画

展覧会

1	teamLab : Au-delà des limites (境界のない世界)
2	池田亮司 continuum
3	Enfance / こども時代
4	ルーブル美術館ピラミッド内 特別展示 名和晃平 彫刻作品 "Throne"
5	深みへー日本の美意識を求めてー
6	井上有ー 1916-1985 一書の解放ー
7	若沖ー(動植綵絵)を中心に
8	香取慎吾 NAKAMA des ARTS
9	安藤忠雄ー挑戦
10	縄文ー日本における美の誕生
11	明治
12	京都の宝ー琳派300年の創造
13	ジャポニズムの 150年
14	MANGA ⇄ TOKYO
15	藤田嗣治 : 生涯の作品(1886-1968)
16	古都奈良の祈り
17	BEYOND EAST & WEST 日本の伝統美が鮮やかに蘇る

舞台公演

1	邦楽ライブ 和太鼓 × 津軽三味線
2	和太鼓 DRUM TAO 『DRUM HEART』
3	【2.5次元ミュージカル】 ミュージカル『刀剣乱舞』～阿津賀志山異聞2018 巴里～
4	雅楽 宮内庁式部職楽部
5	宮本亜門演出 能 × 3D映像『YUGEN 幽玄』
6	松竹大歌舞伎
7	日仏ダンス共同制作 トリプルビル
8	野村万作・萬斎・裕基 × 杉本博司『ディヴァイン・ダンス 三番叟』
9	現代演劇シリーズータニノクロウ演出『ダークマスター』
10	現代演劇シリーズータニノクロウ演出『地獄谷温泉 無明ノ宿』
11	現代演劇シリーズーリーディング 館屋法水作『ブルーシート』
12	現代演劇シリーズーリーディング 前川知大作『散歩する侵略者』
13	ジャポニズム 2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat. 石野卓球
14	ジャポニズム 2018 テクノ・イベント テクノ・コンサート
15	野田秀樹演出『眞作 桜の森の満開の下』
16	ファブリック・シャイヨーノ島地保武 ダンス創作のためのレジデンス・プログラム
17	コンテンポラリーダンスー川口隆夫『大野一雄について』
18	JINSEI TSUJI CONCERT
19	現代演劇シリーズー松井周演出『自慢の息子』
20	文楽
21	伶楽舎 × 森山開次
22	太鼓 林英哲と英哲風雲の会
23	日本舞踊
24	現代演劇シリーズー岡田利規演出『三月の5日間』リクリエーション
25	現代演劇シリーズー岡田利規演出『プラターナー: 憑依のポートレート』
26	現代演劇シリーズー木ノ下裕一監修・補綴 杉原邦生演出・美術 木ノ下歌舞伎『勸進帳』
27	【2.5次元ミュージカル】 "Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live
28	宮城聡演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』
29	現代演劇シリーズー藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出よう』
30	現代演劇シリーズー岩井秀人構成・演出 『ワレワレのモロモロ ジュヌピリエ編』

31	HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE
32	ジャズ 小曽根真 featuring No Name Horses
33	コンテンポラリーダンスー伊藤郁女 × 森山未來 『Is it worth to save us?』
34	能楽
35	蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』
36	2018 ジャパン × フランス プロジェクト (日本の障害者による舞台芸術の発信/瑞宝太鼓 in フランス)

映像

1	河瀬直美監督 新作『Vision』特別上映
2	テレビ日本特集
3	日本映画の 100年
4	『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会
5	河瀬直美監督特集 特別展・特集上映
6	KINOTAYO 現代日本映画祭
7	『FOUJITA』特別上映会

生活文化ほか

1	「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエく子ども向け>
2	「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ ＜調理師学校・シェフ向け＞
3	「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 酒巡り in Paris
4	「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 日本のお酒試飲の夕べ
5	「日本の食と文化を考える」シリーズ Pompidou Extra Festival! 「亡霊の饗宴」
6	「日本の食と文化を考える」シリーズ 日本へのクリエイティブな旅展「日本のガストロノミー： 地方の食文化を中心に」
7	「日本の食と文化を考える」シリーズ 食文化シンポジウム
8	「日本の食と文化を学ぶ / 楽しむ / 考える」シリーズ 日本茶の世界
9	日本茶アトリエ
10	日本茶月間
11	日本茶講演会
12	エッフェル塔特別ライトアップ＜エッフェル塔 日本の光を纏う＞
13	伝統工芸シリーズ① TEWAZA
14	伝統工芸シリーズ② 日本のもので繋ぐ「和」の空間
15	伝統工芸シリーズ③ 伝統と先端とー日本の地方の底力
16	日仏ダイアローグ① 講演会「クローデルの『縲子の靴』」
17	日仏ダイアローグ② 講演会「ジャポニズム：北斎とセザンヌ」
18	日仏ダイアローグ③ シンポジウム 「グローバル・プレイヤーとしての日仏協力：日仏協力の現実と未来」
19	日仏ダイアローグ④ シンポジウム 「日本人が見たフランス、フランス人が見た日本」
20	日仏ダイアローグ⑤ シンポジウム「日仏文学の今」
21	日仏ダイアローグ⑥ 俳句討論会 「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
22	日仏ダイアローグ⑦ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
23	日仏ダイアローグ⑧ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
24	日仏ダイアローグ⑨ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
25	日仏ダイアローグ⑩ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
26	日仏ダイアローグ⑪ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
27	日仏ダイアローグ⑫ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
28	日仏ダイアローグ⑬ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
29	日仏ダイアローグ⑭ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
30	日仏ダイアローグ⑮ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
31	日仏ダイアローグ⑯ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
32	日仏ダイアローグ⑰ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
33	日仏ダイアローグ⑱ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
34	日仏ダイアローグ⑲ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
35	日仏ダイアローグ⑳ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
36	日仏ダイアローグ㉑ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
37	日仏ダイアローグ㉒ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
38	日仏ダイアローグ㉓ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
39	日仏ダイアローグ㉔ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
40	日仏ダイアローグ㉕ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
41	日仏ダイアローグ㉖ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
42	日仏ダイアローグ㉗ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
43	日仏ダイアローグ㉘ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
44	日仏ダイアローグ㉙ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
45	日仏ダイアローグ㉚ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
46	日仏ダイアローグ㉛ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
47	日仏ダイアローグ㉜ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
48	日仏ダイアローグ㉝ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
49	日仏ダイアローグ㉞ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
50	日仏ダイアローグ㉟ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
51	日仏ダイアローグ㊱ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
52	日仏ダイアローグ㊲ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
53	日仏ダイアローグ㊳ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
54	日仏ダイアローグ㊴ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
55	日仏ダイアローグ㊵ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
56	日仏ダイアローグ㊶ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
57	日仏ダイアローグ㊷ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
58	日仏ダイアローグ㊸ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
59	日仏ダイアローグ㊹ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
60	日仏ダイアローグ㊺ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
61	日仏ダイアローグ㊻ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
62	日仏ダイアローグ㊼ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
63	日仏ダイアローグ㊽ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
64	日仏ダイアローグ㊾ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
65	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
66	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
67	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
68	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
69	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
70	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
71	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
72	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
73	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
74	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
75	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
76	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
77	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
78	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
79	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
80	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
81	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
82	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
83	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
84	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
85	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
86	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
87	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
88	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
89	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
90	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
91	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
92	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
93	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
94	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
95	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
96	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
97	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
98	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
99	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」
100	日仏ダイアローグ㊿ 講演会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」

PICK UP FY 2018

文化

米国において
日本の文化・芸術を発信

「Japan 2019」



「全米桜祭り」での川井郁子 & 和楽器アンサンブルによるコンサート



『源氏物語』展 in NEW YORK
～紫式部、千年の時めき～

米国における日本の文化・芸術発信事業「Japan 2019」が2019年3月に開幕しました。開幕を飾ったのは、ニューヨーク・メトロポリタン美術館における「『源氏物語』展 in NEW YORK ～紫式部、千年の時めき～」。『源氏物語』が日本の美術や社会に与えた影響を、その華麗な美の世界を通して紹介しました。また、日米友好の祭典「全米桜祭り」にて、2.5次元ミュージカル "Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live、川井郁子 & 和楽器アンサンブルによるコンサート、ジャグリングアーティスト望月ゆうさく (Mochi) によるパフォーマンスを実施しました。



言語

インド、ベトナム、ミャンマーで
日本語教師の育成を開始

日本語教師育成特別強化事業

2018年度よりインド、ベトナム、ミャンマーで「日本語教師育成特別強化事業」を開始しました。日本大使館や当該国の公的機関、大学等と連携して、日本語学習ニーズの飛躍的な伸びに対する教師不足を解消し、現職教師のレベルアップだけでなく新規養成を目指して研修を行っています。初の本格的な日本語教師養成専門コース設置となり、新規養成研修の開講式典には政府要人や学長が出席。国内外の各種メディアで取り上げられるなど注目を集めました。

対話

世界各地で開催されたセミナーや シンポジウムを支援

「明治150年」記念事業



明治元年から満150年に当たる2018年には、海外の日本研究でもこのことにちなんだセミナー・シンポジウムが数多く企画されました。国際交流基金ではこの機会に高まる日本への関心に応えるべく、アジア、米州、欧州、中東の各地域の大学や日本研究学会計10団体による企画に対し、日本からの有識者参加にかかる経費を中心に助成を実施したほか、ドイツでは「明治維新の遺産—民主主義への道(1868年～2018年)」と題したシンポジウムを現地機関と共催し、五百旗頭薫・東京大学教授をはじめ3人の研究者を派遣しました。



アジアセンター

「三陸×アジア」をテーマに 交流事業を展開

「三陸国際芸術祭 2019」

「三陸国際芸術祭 2019」では、「三陸×アジア」をテーマに、インドネシア・ジョグジャカルタから伝統舞踊団を2組招へいして岩手県宮古市・大船渡市、青森県八戸市にて公演やワークショップを実施しました。また、楽しみながら学ぶ防災教育イベント、アジアのデザイナーによる三陸地域でのデザイナー・イン・レジデンス、アートを通じたコミュニティーづくり、2004年スマトラ島沖地震で津波被害を被ったインドネシアのアチェの人々との交流事業等、さまざまな事業を実施しました。

文化

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、
言語の違いを越えて、
相手への興味と共感を生み出します。
日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、
人々の心の距離を近づけます。

2018 年度

主催事業の来場者・参加者数

1,011,707人

多様な日本の文化・芸術の海外への紹介

国際相互理解の増進のため、伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力を、公演、展覧会、翻訳・出版、映画上映、テレビ放送等、さまざまな形で世界の人々に向けて紹介しています。

また、文化・芸術分野における人材育成やネットワーク形成等のため、専門家の派遣・招へい、ワークショップ等を行っています。



「第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」 ©Andrea Sarti/CAST1466

展覧会

世界的に注目度の高い「第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」での日本館の展示として「建築の民族誌」展を実施しました。建築家の貝島桃代氏らの企画による本展は、期間中17万3,000人の来場者を集めました。またマドリードでは、日本スペイン外交関係樹立150周年を記念して「妖怪：想像のイコノグラフィー 日本の超自然的イメージの起源としての百鬼夜行」展を開催。絵巻を中心に浮世絵、根付、着物などを展覧し、同展の関連講座やガイドツアーも人気を博しました。日本国内では、ハバナで行った「近くへの遠回りー日本・キューバ現代美術展」の帰国展を2018年6月に東京で開催しました。



©Andrea Sarti/CAST1466

舞台公演

日中平和友好条約締結40周年を記念し、中国の上海・北京にて山海塾と東京ゲゲゲイによるダンス公演をそれぞれ開催しました。日本発の舞踏を中国で初めて本格的に紹介した山海塾、現地のダンサーを起用して新作を発表した東京ゲゲゲイの両公演は日中友好にふさわしい事業となりました。インドネシアでは、日本との国交樹立60周年を記念し、「ジャカルタ日本祭り・音楽フェスティバル」を実施。若者を中心に人気を集めるJ-POPミュージシャン3組による公演を行い、2日間で2万7,000人を超える来場者を動員しました。ヨーロッパでは、ハンガリー・ポーランドにおける神楽公演「祈りと祝いー東北に息づく神楽の伝統ー」を実施しました。

神楽公演「祈りと祝いー東北に息づく神楽の伝統ー」



写真＝井田裕基



「第 52 回ロシア日本映画祭」オープニングで日露両国のゲストが勢ぞろい



「第 52 回ロシア日本映画祭」オープニング上映の会場は満席となった。

「ロシアにおける日本年」日露映画交流事業

日露関係のさらなる発展を目指す「ロシアにおける日本年」を記念し、ロシア国内計8都市で日本映画祭を開催しました。モスクワでは、日露合作の『ソローキンの見た桜』を日本公開に先駆けて特別上映したほか、日本から黒澤清監督や李相日監督が登壇し、熱心な観客との質疑応答を行いました。小津安二郎監督作品などを紹介するレトロスペクティブ上映や、ロシア初となる「爆音上映」も実施し、合計約2万2,000人が来場しました。

日中映画交流事業

日中平和友好条約締結40周年事業として両国計14都市で映画を上映し、合計2万2,000人以上の熱心な映画ファンが来場しました。上海と成都では『翔んで埼玉』のワールドプレミア上映を行い、武内英樹監督が登壇して満員の会場を盛り上げました。重慶では『花戦さ』の篠原哲雄監督、広州と深センでは『舟を編む』の石井裕也監督、北京では『おじいちゃん、死んじゃったって。』の木滝和幸プロデューサーが登壇し、観客と交流しました。



『翔んで埼玉』の武内英樹監督と「埼玉ポーズ」をする観客たち

テレビ番組紹介

日本のコンテンツが放送されにくい国・地域を対象に、日本理解のきっかけとなるようテレビ番組を紹介する事業を実施。2018年度はドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等、53 国・地域で、のべ 341 番組が放送されました。



© tv asahi

テレビ朝日『ドクターX～外科医・大門未知子～』



© momonoke committee

モノノ怪製作委員会『モノノ怪』



© 2016 SAN-IN CHUO TELEVISION BROADCASTING CO., LTD.

山陰中央テレビジョン『Enjoy! Cruise Japan!』

日中交流センター

日本と中国の未来を担う青少年を中心とする交流活動を促進し、互いの生活や文化を体験する機会を提供することで、相互理解を深めています。2016年に設立10周年を迎えました。これからも双方向性と協働性を重視した事業を実施し、より深く息の長い「心と心のつながり(=心連心)」を築くことを目指します。



2018年9月に来日した第13期生26人。北海道から沖縄まで、全国各地の高校で留学生活を送っている。



福建省で新規オープンしたアモイふれあいの場。アモイ市内で日本文化体験や日中交流に関するさまざまなイベントを実施。



昆明ふれあいの場で、フォトジェニックな夏祭りをコンセプトとした交流イベント「フォトジェニック夏祭り」を企画・運営した早稲田大学学生チームと雲南師範大学学生

中国高校生長期招へい事業

次世代を担う中国の高校生に、約11か月にわたり、日本の一般的な高校生の生活を体験する機会を提供しています。2018年度は、第12期生30人が7月に帰国、第13期生26人が9月に来日し、これまでの招へい者数は総計416人となりました。第12期までに招へいした390人のうち120人が日本の大学または大学院等に進学し、31人は社会人として日本の企業に勤務する等、日中間を結ぶ人材が着実に育っています。

中国「ふれあいの場」事業

日本人や日本の情報に触れる機会が限られた中国地方都市の大学等の機関において、日本の雑誌・書籍・映像資料等の最新コンテンツの閲覧・視聴ができる「ふれあいの場」の設置を支援しています。「ふれあいの場」では、在留邦人や現地の中国人の協力も得て、さまざまな日中交流イベントを開催しています。

ネットワーク強化事業

日中両国の交流の担い手となる青少年間のネットワーク構築を目指し、共同作業に重きを置いたさまざまな事業を実施しています。2018年度も、日中両国の大学生が共同で日本文化紹介イベントの企画・運営を行う「大学生交流事業」、ビジネスや就職を切り口に日中の大学生が企業訪問・ディスカッションを行う合宿型交流プログラム「リードアジア」の支援、日中両言語対応の「心連心ウェブサイト」の運営等を行ってきました。

言語

海外における日本語教育

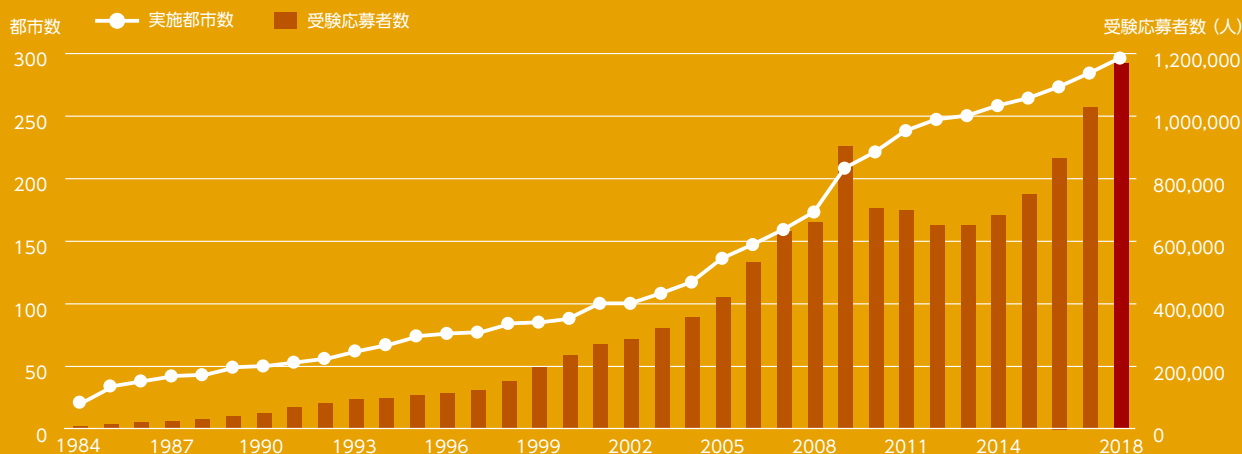
海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、
日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。
世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、
各国の日本語学習環境の整備を進めています。

2018年度
日本語能力試験 受験応募者数 1,168,000人

実施都市数 296都市

累計受験応募者数 13,035,636人

日本語能力試験 受験応募者数と実施都市数の推移（全世界）



海外の日本語教育環境の整備

海外において質が高く安定した日本語教育が広く実施されるよう、各国・地域の状況等を踏まえつつ、現地の行政機関や主要な日本語教育機関と連携して主に次の事業を行い、各地の日本語教育環境の整備を進めました。

日本語専門家の海外派遣

各国教育省や国際交流基金海外事務所、教育機関等に日本語教育の専門家や指導助手を派遣し(42か国119ポスト)、現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間のネットワーク形成支援、教育機関への巡回指導等を行っています。また、若手日本語教員(J-LEAP)11人に加えて、新たに日本語教育サポーター6人を米国に派遣し日本語授業の支援等を実施しました。



J-LEAP8 期生の着後研修(シアトル)

日本語教育機関に対する活動助成、ネットワーク形成支援

JFにほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバー*をはじめとする現地教育機関による、日本語講座、教材購入、弁論大会等の日本語普及活動に対する助成を行っています。

*「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2018年度末現在93か国・地域292機関。



カンボジアでの授業風景(非営利活動法人メコンカンボジアジャパン)

各国日本語教師・学習者等を対象にした研修の実施

海外での日本語教育を担う人材のスキルアップ等のため、日本語国際センター及び関西国際センターにおいて日本語教師及び学習者等の招へい研修を実施しました。



日本語国際センター海外日本語教師研修(短期研修・夏期)

EPAに基づく訪日前日本語研修の実施

インドネシア・フィリピンと日本との二国間経済連携協定(EPA)に基づき、看護師・介護福祉士候補者646人を対象とした来日前の日本語予備教育事業(6か月間)を実施しました。候補者は来日後、さらに6か月の日本語研修を経て病院や介護施設に配属され、仕事をしながら国家試験合格を目指します。



インドネシアEPA候補者の授業での発表の様子

日本語国際センター

海外での日本語教育を総合的に支援するため1989年に設立。海外の日本語教師を招へいして日本語、日本語教授法、日本文化等の研修を実施しています。また、日本語教材の制作や「JF日本語教育スタンダード*」の活用推進に取り組んでいます。

*「課題遂行能力」と「異文化理解能力」の育成を重視した、コースデザイン、授業設計、評価を考えるための枠組みです。



日本語国際センター海外日本語教師研修(長期) 地方研修(友禅染体験)

関西国際センター

海外の日本語学習者を支援する日本語研修施設として1997年に設立。各国の外交官、公務員や日本研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行うほか、日本語学習者等の訪日研修を実施しています。また、研修事業で得たノウハウを基に、日本語オンラインコース、日本語学習サイトやアプリなどのeラーニング教材の開発を推進しています。



関西国際センター専門日本語研修

海外における日本語教授法及び 日本語学習者の能力評価の充実

より一層の日本語普及のためには、日本語学習者の利便性向上に繋がる教育内容の国際標準化と、学習奨励にも資する能力評価の充実が重要になることから、主に次の事業を行いました。

日本語能力試験 (JLPT) の実施

日本語を母語としない人を対象とした世界最大規模の日本語能力試験を1984年から実施しています。

エルサルバドル、トリニダード・トバゴ、カタール、コンゴ民主共和国、ガーナの5か国、さらに桃園(台湾)、マカッサル(インドネシア)、パレンバン(インドネシア)、ニューアーク(アメリカ)、ヤクーツク(ロシア)、イスタンブール(トルコ)の6都市で新規に試験を実施し、実施国・都市数は、国内(47都道府県)を含む全世界86か国、296都市に拡大しました。応募者数(116万8,000人)・受験者数(100万9,074人)ともに年々増加しており、1984年の試験開始以来、2017年度には応募者数が、18年度には受験者数が初めて100万人を突破しました。また、累計応募者数が1,303万5,636人となりました。

JLPT Japanese-Language Proficiency Test



コンゴ民主共和国での試験実施



eラーニングの開発・運営

日本語学習プラットフォーム「みなと」のメインコースである「まるごとオンラインコース」への初級2 (A2) レベルや入門 (A1) レベルのフランス語版の追加、「華道」、「関西弁入門」コースの開講等、コンテンツの拡充と利便性向上に努めた結果、ユーザー数は180か国・地域で6万2,474人に増加しました。2018年11月には第15回日本 e-Learning 大賞にて「eIJ Global 賞」を受賞しました。また、連想イラストとゲームで漢字を楽しく学べるアプリ「Kanji Memory Hint 3 英語版」をリリースしました。

日本語教授法に関する情報発信と素材の提供

「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進のため、国内外でのセミナー、研修会、ウェブサイト、SNS を通じた情報発信を行いました。また、準拠教材である『まるごと 日本のことばと文化』の紹介セミナーやサポート教材の多言語化、現地出版等、普及活動を行ったほか、国際交流基金開発の e ラーニングコンテンツ活用に関する情報提供にも取り組みました。



海外における日本語教育・学習に関する調査実施と情報の提供

海外の日本語教育の現状を把握するため、国際交流基金海外事務所、在外公館、その他関連機関の協力のもと、3年に一度「海外日本語教育機関調査」を全世界で実施。2018年度は全世界で調査を実施し、2019年度中の調査結果公表に向けて準備を進めました。



対話

日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、
深い相互理解へとつながります。
また、世界共通の課題についてのシンポジウムや
共同プロジェクトを通じ、有識者同士の交流を促進します。

海外の研究者等に対するフェローシップ供与実績（のべ人数）※1

※1 国際交流基金が設立された1972年以降の各年度の新規開始件数を累計した
もの。文化芸術、日本語教育関係者や、アジア文化交流強化事業として
実施されたものを含む。

6,791人

安倍フェローシップ

関連出版物総数 ※2

※2 事業開始～2018年3月

3,951点

（うち日本語文献1,303件、英語文献2,648件）

2018年度に発表されたフェロー ※3 による刊行論文等

※3 過去の受給経験者を含む

日本語文献 22件 英語文献 68件

日米草の根派遣交流（JOI）プログラム

2018年度アウトリーチ数 ※4

※4 イベントや催し参加者数

65,071人

アウトリーチ総数 ※5

※5 2003年度（第1期2年目）～2018年度末日時点

約106万人

海外における日本研究

各国・地域の日本研究の基盤を強化し、専門家を育成するために、拠点となる機関に対し、国際会議や教員雇用、図書整備、訪日研修等の支援を行います。また、各地の日本研究者が国を超えて交流するネットワークを強化することで、日本研究のさらなる発展を促します。



日本研究フェローシップ

タイモン・スクリーチ

ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 (SOAS) 教授

江戸期の美術・文学を専門とするスクリーチ教授は、国際交流基金のフェローシップによる何度かの訪日研究を含む長年の活動が評価され、2018年に英国学士院フェローに選出されました。江戸期のビジュアル文化に関する十数冊もの単著の刊行、イギリス東インド会社による日本美術の取引に関する研究、日英両国での後進の育成等、その活躍は広範囲に及びます。

日本研究機関支援

次世代日本研究者協働研究ワークショップ

東アジア・東南アジア・南アジアの15の主要日本研究機関で学ぶ大学院生(博士、修士)23人を招へいし、1週間の集中ワークショップを実施しました。日本・韓国・フィリピンの優れた研究者を講師に迎え、学際研究の意義、研究のオリジナリティや社会的意義について考え、最終的に地域や分野を越えた協働研究のプロポーザルをつくり模擬パネルで発表するというプログラム構成を通じて、これからの日本研究者のあり方について共に考える機会を提供しました。



地域や分野を越えた研究協力について、園田茂人・東京大学教授と共に議論する参加者たち

日本研究ネットワーク支援

東南アジア日本学会 (JSA-ASEAN) 第6回総会

2006年に発足したJSA-ASEANの第6回総会が、2018年12月にジャカルタで開催されました。約250人(発表者120人超を含む)の研究者、大学院生が集い、24の分科会が設けられ、活発な交流が行われました。国際交流基金は、開催経費の一部を支援したほか、若手研究者の発表を促進するため、ASEAN諸国45人、米国4人の計49人に旅費を供与しました。本総会は大学院生等若手研究者に対して積極的に発表機会を提供する等、人材育成のプラットフォームとしての機能を果たしており、今後も東南アジアの日本研究を牽引する存在として発展することが期待されます。



ASEAN各国から集まった実行委員の先生方

日本と世界各国に共通する関心の高いテーマや重要課題について知識人らが対話し、人的な交流を重ね深める場として、国際会議やシンポジウムの開催、有識者の派遣や招へいを行っています。次代の交流について必要な人材の育成、国際相互理解を促進し、世界の発展と安定への知的貢献を目指します。



読者との撮影に応じる徐瑾氏 (右)



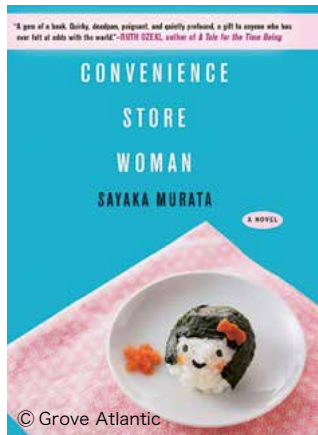
天津市の書店で出版記念講演をする馬国川氏

中国知識人招へい

対日理解の深化や知的ネットワークの構築のため、中国で高い発信力をもつ若手・中堅の研究者、知識人を日本に招へいしています。2016年度に招へいしたフィナンシャルタイムズ中国語版編集長の徐瑾氏は『不迷路、不東京 (道に迷わなければ、東京ではない)』を、同じく 2016年度に招へいした雑誌『財経』主筆の馬国川氏は明治維新をテーマに『国家の啓蒙』を出版して、訪日中の研究成果を中国国内に広く発信しました。

村田沙耶香氏、世界へ

英国、カナダ、米国、スペインの各国国際交流基金事務所では、芥川賞作家・村田沙耶香氏を招へいし、「チェルトナム文学祭」、「トロント国際作家祭」、アイオワ大学、ニューヨーク大学、カサ・アジア (バルセロナ本部) 等で朗読やトークイベントを実施しました。村田氏の受賞作『コンビニ人間』英語版・スペイン語版が国際交流基金の助成により翻訳出版されたこともあって、各イベントはプレスも含め大きな反響を呼び、同書の『ザ・ニューヨーカー』誌「The Best Books of 2018」への選出にも繋がりました。



「トロント国際作家祭」にてサインに応じる村田氏

現代日本理解特別プログラム

フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO)、パリ第7大学

現代日本についての社会科学分野での理解増進を目指すこのプログラムは、フランスでは日本研究で長年の実績がある上記二つの機関からなるコンソーシアムを対象にし、講義のオンライン公開や一般向け講演会、翻訳出版等を支援しています。これらの事業を担当する博士研究員には、渋沢・クローデル賞の受賞者が在籍し、過去の研究員は大学講師に採用される等、将来の日本研究を担う人材育成にも貢献しています。



INALCO における一般向け講演会の様子



日米センターは、日米両国が協力してグローバルな課題に取り組むことを目的に、1991年に設立されました。日米協働による世界への貢献と相互理解に基づくゆるぎない協力関係を実現すべく各界各層における対話と交流を促進しています。

安倍フェローシップ・プログラム/グローバルフォーラム

安倍フェローシップ・プログラムは、1991年より日米センターと米国社会科学研究評議会(SSRC)が協力して運営する研究奨学制度で、地球規模の政策課題に取り組む研究者・ジャーナリストを対象としています。フェロー経験者は活発な成果発表を行っており、2018年度中に発表された安倍フェローによる刊行論文等は、日本語文献22件、英語文献68件になりました。また2018年度も、安倍フェローによる知見の発信及び対話を通して日米のさらなる関係強化や理解促進を図ることを目的に、「安倍フェローシップ・グローバルフォーラム」がアトランタとワシントン D.C. にて開催され、「イノベーションと環境テクノロジー」をテーマに、過去の安倍フェロー6人をパネリストとする活発な討議が行われました。

2018年12月3日 カーネギー国際平和財団(ワシントンD.C.)で開催



フォーラムの様子 カーネギー国際平和財団ジェームズ・シヨフ上級研究員(右端)と

2018年12月1日 ジョージア工科大学(アトランタ)で開催



ジョン・ワルシュ ジョージア工科大学教授(2001年安倍フェロー)発表の様子

右から、鎗目雅(東京大学公共政策大学院科学技術イノベーション・ガバナンス特任准教授、2014年安倍フェロー)、上山隆大(政策研究大学院大学客員教授、2000年安倍フェロー)、キャスリン・イバタ・アレックス(デュボール大学政治学部教授、2004年安倍フェロー)、マリー・アンチョドギー(ワシントン州立大学ジャクソン国際研究大学院教授、1997年安倍フェロー)



JOI 15期コーディネーターの山本亜衣理氏(ケンタッキー州マーレイ州立大学に派遣)現地でのワークショップにて

日米草の根交流事業

JOI プログラムと GEN-J プログラム

米国の草の根レベルで日本への関心と理解を深めることを目的に、日本との交流の機会が比較的少ない米国の南部・中西部で地域に根差した二つの事業を米国の非営利団体のローラシアン協会と共催で行っています。一つは「日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)」プログラムで、新規に5人のコーディネーターを米国に派遣(第17期)したほか、継続派遣中の9人と合わせ、のべ14人が地域の学校や図書館等で日本文化を紹介する幅広い活動を行いました。もう一つは、2018年度に開始され、米国における日本企業と地域社会の連携強化を目指す「グラスルーツからの日米関係強化派遣(GEN-J)」プログラムで、南部・中西部の5州の日米協会に日米交流ファシリテーター7人を派遣しました。

アジアセンター

アジアセンターは、日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野で ASEAN 諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。アジアとともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むこと、アジアの架け橋となる人材を育成することを目指しています。

日本語学習支援

教えた学生数 (のべ) 498,754人

“日本語パートナーズ”派遣人数(のべ) 1,860人

芸術・文化の双方向交流

主催・助成件数 1,981件

参加者数 (のべ) 4,695,535人

※2014年度～2018年度の累計

アジアセンターの設立経緯

2013年12月に東京で開催された日・ASEAN 特別首脳会議において、日本政府が発表した新しいアジア文化交流政策「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」を担う部署として、2014年4月にアジアセンターが設置されました。



提供：内閣広報室

日本語学習支援

“日本語パートナーズ”派遣事業

アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う“日本語パートナーズ”を現地の教育機関へ派遣しています。2018年度は635人をASEAN10か国と中国・台湾の526の中学・高校・大学等に派遣しました。“日本語パートナーズ”は日本語学習者や地域の人々とのふれあいを生み出すとともに、課外活動やイベントなどを通して日本文化の紹介を行っています。



年齢も経歴も多様な参加者

専門的な知識がなくても、特技のある方、人生のキャリアを積んだ方、アジアとの交流に熱意を持った方等、20～60代のパートナーズが、それぞれの強みと経験を生かして活躍しています。

生きた日本語、リアルな日本

日本語ネイティブのパートナーズだからこそ、教科書に載っていることだけではない、生きた日本語、リアルな日本を、教室の中でも外でも伝えることができます。



現地で学び、 アジアの架け橋となる

パートナーズは、日本語や日本文化を伝えるだけではなく、現地の言葉と文化を学びます。敬意をもって対等な立場で交流し、その体験を発信することで、アジアの架け橋となります。

現地からの声

現地から、パートナーズが来たことで日本への関心が高まり、日本語を履修する生徒が増え、生徒の学習意欲が高まったとの声が数多く寄せられています。



“日本語パートナーズ” 経験者の声

「タイでの経験を生かし、 地域の国際交流に貢献」

タイ3期 佐藤 花美

パートナーズとして活動後、再びタイで日本語教師を経験し、今は北海道美咲市職員として観光振興を担当しています。パートナーズの経験から学んだ「まず異文化交流を楽しむ」という姿勢を大切に、「やさしい日本語」を使って草の根の国際交流に貢献したいと思います。



「“日本語パートナーズ”は 民間外交官。これからも架 け橋として活動したい」

ブルネイ3期 河原 正人

会社の休職制度を利用して参加しました。イスラム教の文化習慣に親しみながら、ブログでブルネイの単語集を公開したり、ローカル情報を発信したりしました。現地の日本理解を促進するため、今後も日本とブルネイをつなぐ架け橋として活動したいです。



美術、映画・映像、舞台芸術、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野で、アジアの人々の交流活動を推進しています。双方向性、協働性を重視し、各々のアイデンティティと多様性を尊重し合い、共にアジアの新たな文化を創造します。



© 谷康弘、写真提供：山口情報芸術センター [YCAM]

Condition Report 「呼吸する地図たち」

東南アジア各国と日本のキュレーターによる協働プロジェクト「Condition Report」では、前年度までの成果を踏まえ、美術界における次世代の新たなネットワークのさらなる強化と日本における成果発信を目的とした展覧会「呼吸する地図たち」を、山口情報芸術センター [YCAM]にて開催しました。

国際共同制作の舞台作品

ウティット・ヘーマムーン氏の小説を、岡田利規氏の脚本・演出と塚原悠也氏のセノグラフィ、タイの俳優・両国のスタッフとともに舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』と、鈴木忠志氏が演出を手掛けたインドネシアとの国際共同制作作品『ディオニュソス』がともに複数年にわたる過程を経て、2018年度に世界初演を迎えました。前者はタイ批評家協会以最優秀作品賞を受賞し、後者はアジア最大の演劇祭である、シンガポール国際アート・フェスティバル 2019 のオープニング作品に選ばれる等、大きな成果をあげました。



© Sopanat Somkhanngoen



© 2018 TIFF

「東京国際映画祭」をプラットフォームとした 映画交流事業

「東京国際映画祭」と連携して、アジアの映画関係者を招へいし、日本の関係者とのネットワーク深化の機会を提供しました。また、日本、インドネシア、中国の監督によるオムニバス映画『アジア三面鏡2018：Journey』を製作。さらに、「東京国際映画祭」CROSSCUT ASIA 部門で「音楽」をテーマとする東南アジア映画を特集上映しました。

JFF (Japanese Film Festival : 日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想

強い集客力を持つ日本映画の総合プラットフォームの構築を目指し、2018年度は、ASEAN10 各国及び豪州の計11 国で日本映画祭を開催しました。日本映画の多様性や、映画を通じた日本文化の魅力を伝えるべく、最新の日本映画を中心に約800回上映し、12万8千人の観客を動員しました。



ASIAN ELEVEN

東南アジアとのサッカー交流事業

サッカー人材の育成及びサッカーを通じた日本と ASEAN 諸国の青少年の相互理解促進を目的に、日本サッカー協会 (JFA) ならびに日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) と連携し、サッカー関係者 86人を招へい、指導者 16人を派遣しました。また、Jリーグと共催で開催した ASEAN10 各国におけるサッカー教室にはのべ 294人が参加しました。



国際シンポジウム

「アジアの価値観と民主主義」

アジア各国の有識者を招へいし、「アジアで民主主義が育ち、発展した背景には何があるのか」をテーマに東京で国際シンポジウムを開催しました。本事業は、2014年日印首脳会談において、安倍総理がインドのモディ首相よりアジアの民主主義の背景にある宗教的価値観に関するフォーラム実施の提案を受け、両者間の合意を受けて開始されました。



「東南アジア・ムスリム青年との対話 (TAMU/Talk with Muslim series)」

日本におけるイスラーム理解の促進を図ることを目的とした、東南アジアの若手ムスリムと日本の青年層が、互いの文化や価値観について対話を行う相互発信型の事業です。東南アジアの 7 か国から 10人の若手ムスリムリーダーが日本の大学や市民団体などを訪れ、東南アジアのイスラーム教徒としての社会活動や価値観を伝えながら、日本文化や社会、日本人の宗教観について理解を深めました。

「Earth Manual Project – This Could Save Your Life」展

米国屈指のデザイン高等教育機関であるニューヨークのパーソンズ美術大学で、防災や建築・デザイン・アート部門で活躍する日本の専門家たちが、クリエイティブな発想で生み出した防災教育、災害対応、被災地支援の取り組みを紹介しました。また、アジアセンターが主催する「HANDs! プロジェクト」やインドネシア、タイ、フィリピンなど東南アジア諸国での取り組みについても展示しました。



その他の 取り組み

国際文化交流への理解と参画の促進

国際交流基金では、「国際交流基金賞」及び「国際交流基金地球市民賞」により、国際文化交流を通じて日本と海外の相互理解の深化に貢献した個人・団体や、地域に根ざした優れた国際交流を行っている団体を顕彰しています。

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。46回目となる2018年度は、72件の候補の中から3件の受賞者を決定しました。

2018年度 受賞者及び授賞理由



多和田 葉子【日本】
(小説家、詩人)

多和田氏は、日本とドイツの間で国と言語の境界を越えて自由に行き来しながら、詩と小説を書き続けてきた日独バイリンガル作家である。このようなバイリンガル作家は、近代日本史上前例のないユニークな存在であると同時に、今後の世界文学の方向性を鮮やかに予告するものである。文学に新しい越境的な領域を切り拓き、日本文学の境界を押し広げてきた作家活動は、国や文化の壁を越えた相互理解の促進に大きく貢献してきた。



細川 俊夫【日本】
(作曲家)

細川氏は、ヨーロッパと日本を中心に創作活動を展開してきた日本を代表する作曲家である。『班女』、『松風』、『循環する海』といった作品は、世界中で演奏されるレパートリーとして定着した。東日本大震災で受けた衝撃をもとに創作した『哀歌』をはじめとする犠牲者追悼の音楽は、日本人が決して忘れてはならないメッセージを内包している。これらの作品は世界各地で演奏され国際相互理解の促進に貢献してきた。



サラマンカ大学
スペイン日本文化センター【スペイン】

サラマンカ大学は、長らく世界の学術を主導し、国際交流の拠点となってきた。なかでも1999年に同大学に創られた「サラマンカ大学スペイン日本文化センター」は、スペインと日本との友好関係、相互理解を維持強化する上で中心的役割を果たしてきた。今もなお、年間を通じて日本文化、言語、歴史、現代日本にかかわる質の高い交流や活動を行うほか、特に日本文化週間には数多くの事業を展開し、スペイン内外で高く評価されている。

国際交流基金地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。34回目となる2018年度は、97件の候補の中から3件の受賞団体を決定しました。

2018年度受賞団体及び授賞理由



小松サマースクール実行委員会
(石川県小松市)

2014年より石川県小松市で毎年開催されている大学生による高校生のためのサマースクール。さまざまな国の大学生が企画や運営のほぼ全てを行っている。地元と全国から集まる高校生は、英語でのリベラルアーツセミナー、社会人フォーラム、小松の文化体験などのプログラムに参加し相互に交流を深めている。国際交流活動に積極的な若者が育つ好循環が生まれ、地方都市における若者による若者のための国際交流事業のモデルといえる。



グローバル人財サポート浜松
(静岡県浜松市)

定住外国人の就労支援のための独自のカリキュラムや教材を開発し、介護の現場に必要な日本語や技能の指導を行っている。同団体の取り組みは、外国人が担い手として活躍できる社会を指向している点が先進的であるといえる。また、学生の社会貢献活動の支援や、浜松市内の介護事業者の組合活動、浜松が将来就労先として選ばれる街になるよう海外との友好関係を築く等、多岐にわたる活動をしている。



パンゲア
(京都府京都市)

ICT技術を使い、世界中の子どもたちが出会い、コミュニケーションできるプラットフォームを運営している。世界各地の活動拠点に子どもたちが集まり、他の拠点とウェブでつないでのアクティビティや京都でのサマースクールを開催している。独自に開発した450種類にも及ぶ絵文字や、複数言語に同時に翻訳できる機械翻訳も利用し、使用言語による序列化を起こさない姿勢を貫き、相手を思いやる態度が醸成される仕組みになっている。

1. 主催公演

山海塾 中国公演
 東京ゲゲゲイ『黒猫ホテル』中国公演
 ミャンマー国立交響楽団・邦楽奏者によるコンサート
 神楽中欧公演「祈りと祝い—東北に息づく神楽の伝統—」

2. 日本祭り開催支援

ジャカルタ日本祭り・音楽フェスティバル
 日加修好90周年記念 林英哲 with 英哲風雲の会カナダツアー
 全米桜祭り
 創作芸団レキオス アルゼンチン公演
 日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念事業
 日本・スウェーデン俳句交流シンポジウム
 「倭-YAMATO」スウェーデン公演
 DRUM TAO 『舞響〜DRUMHEART』ロシア公演

3. 海外派遣助成

助成実績：65か国、223都市、90件

4. パフォーミング・アーツ・ジャパン

助成実績：10か国、46都市、16件
 北米：2か国、32都市、10件
 欧州：8か国、14都市、6件

5. 国際展

第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展

6. 企画展

「近くへの遠回り—日本・キューバ現代美術展」帰国展
 「妖怪：想像のイコノグラフィー 日本の超自然的イメージの起源としての百鬼夜行」展(スペイン)

7. 国際交流基金巡回展

デザイン、建築、写真、工芸、武道、ポップカルチャー等、さまざまなテーマのもとに制作した巡回展を計54か国・地域、91都市において開催。また、巡回展に関連する講演会を実施。

巡回展「構築環境」展にあわせた日本の建築、土木に関する講演会(インド)

巡回展「Tokyo Before/After」にあわせた日本の写真に関する講演会(メキシコ)

8. 海外展助成

助成実績：17か国、28都市、28件

9. 国際図書展参加

8か国、8都市、8件

10. 翻訳出版助成

助成実績：18か国、22件

11. 専門家等交流

石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業(米国・欧州)

米国・日本美術調査

北米・舞台芸術家交流

日本写真協会賞国際賞受賞記念講演会

12. 情報発信

第12回日本国際漫画賞受賞者招へい

舞台芸術ウェブサイト(PANJ)

日本映画データベース(JFDB)

13. 文化協力

文化財保護のための専門家派遣(エクアドル)

14. 欧米ミュージアム基盤整備支援

2か国、4都市、4件

15. 日本映画上映

67か国・地域で日本映画祭・上映会を実施

助成事業：12か国・地域、16件

16. テレビ番組紹介

53か国・地域、のべ341のテレビ番組を放送

17. 心連心：中国高校生長期招へい

第12期生30人が帰国

第13期生26人が来日

18. 中国 ふれあいの場

中国国内16都市で運営、催しを実施。のべ来場者39,101人

日本企業文化紹介セミナー

メイクアップワークショップ

ふれあいの場 実務担当者研修

貴陽 ふれあいの場 幹部訪日研修

19. ネットワーク強化

大学生交流事業

日本高校生短期訪中事業

高校校長訪中事業

「リードアジア2018」

ふれあいの場 学生代表訪日研修等、派遣事業4件、招へい事業2件を実施

1. 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

国内外の各種セミナー・研修会等での情報提供、共同研究等へのアドバイス等、27件の活動を実施

2. JF 講座の実施

28 各国・地域、31 都市

3. インターネットを活用した教育ツール

- (1) WEB 版「エリンが挑戦！にほんごできます。」
年間アクセス数：約404万件
- (2)「みんなの教材サイト」年間アクセス数：約162万件
- (3)「JF にほんご e ラーニング みなと」ユーザー登録者数：約6.2万人
- (4)「ひろがる もっといるんな日本と日本語」年間アクセス数：約35万件
- (5)「まるごと + (まるごとプラス)」年間アクセス数：約370万件
- (6)「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数：約102万件
- (7)「NIHONGO e な(いいな)」年間アクセス数：約105万件
- (8)「日本語でケアナビ」年間アクセス数：約97万件
- (9) HIRAGANA Memory Hint (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約6万件
- (10) KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約4万件
- (11) KANJI Memory Hint 1,2&3 (文字学習アプリ)
年間ダウンロード数：約7万件
- (12) アプリ「エリンと挑戦！にほんごテスト」(初学者向けアプリ)
年間ダウンロード数：約1万件

4. 日本語能力試験

第1回試験(7月1日)：海外40 各国・地域、135 都市、応募者数 361,361 人(受験者数300,903 人)
国内*46 都道府県、応募者数182,828 人(受験者数169,176 人)
第2回試験(12月2日)：海外76 各国・地域、232 都市、応募者数 410,559 人(受験者数343,241 人)
国内*47 都道府県、応募者数213,252 人(受験者数195,754 人)
*日本国内での試験は、共催者である公益財団法人日本国際教育支援協会が実施

5. 日本語事業に関する調査、情報提供

『国際交流基金日本語教育紀要』(年1回の発行)
「日本語教育国・地域別情報」サイトの運営
「2018年度海外日本語教育機関調査」の実施

6. 海外事務所における日本語事業及び「JF にほんご ネットワーク」(さくらネットワーク)

国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門
日本センター事業：29 各国、230 件
さくらネットワーク：93 各国・地域、292 機関
海外日本語教育機関支援(助成)：93 各国・地域、547 件

7. 日本語専門家の海外派遣

日本語専門家等派遣
日本語上級専門家：24 各国、38 ポスト
日本語専門家：37 各国、70 ポスト
日本語指導助手：11 各国、11 ポスト
米国若手日本語教員：1 各国、11 ポスト
日本語教育サポーター(グラスルーツからの日米関係強化事業)：1 各国、6 ポスト

8. 海外の教師を対象とした招へい研修

指導的日本語教師の養成
日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)：6 各国、6 人(新規4 人、継続2 人)
海外日本語教師研修
長期：29 各国、42 人
短期：32 各国・地域、69 人
(短期(夏期)：20 各国・地域、34 人
(短期(冬期)：21 各国・地域、35 人(日系人枠：1 各国、2 人))
さくら基礎研修：8 各国、16 人
大韓民国中等教育日本語教師研修：1 各国、35 人

中国中等学校日本語教師研修：1 各国、19 人
フィリピン中等教育日本語教師研修：1 各国、28 人
プロジェクト別：2 各国、5 人
テーマ別：12 各国、18 人
(テーマ別(文法指導法)：8 各国、10 人
(テーマ別(コースデザイン)：5 各国、8 人)
大阪府クィーンズランド州日本語教師研修：1 各国、5 人
さくらネットワーク研修企画型(うち教師)：4 各国、10 人
東南アジア日本語教員養成大学移動講座(うち教師)
インドネシア：13 人 ベトナム：7 人
タイ日本語教師会教師研修：1 各国、10 人

9. 海外の学習者等を対象とした招へい研修

専門日本語研修

平成29年度(前年度からの継続)
外交官研修：27 各国、27 人
公務員研修：7 各国、7 人
文化・学術専門家研修
6 か月コース：11 各国、19 人
平成30年度
外交官研修：27 各国、27 人
公務員研修：5 各国、5 人
文化・学術専門家研修
2 か月コース：9 各国、11 人
6 か月コース：7 各国、16 人

日本語学習者訪日研修

各国成績優秀者研修：45 各国、45 人
ブラジル日本語指導員(学生チューター)訪日研修：1 各国、15 人
李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修：1 各国、20 人
インドネシア日本語弁論大会(大学生・一般の部)入賞者訪日研修：1 各国、1 人
さくらネットワーク研修企画型研修(うち学習者)：4 各国、5 人
エセック・ビジネススクール訪日研修：1 各国(フランス)、17 人
日本語教育キャパシティビルディング
東南アジア日本語教員養成大学移動講座(うち学習者)
インドネシア：12 人 ベトナム：14 人

10. 経済連携協定(EPA)日本語予備教育事業

インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、日本語予備教育事業を6 か月間実施
EPA 研修：2 各国、4 件
平成29年度(継続) インドネシア：329 人 フィリピン：317 人
平成30年度(新規) インドネシア：334 人 フィリピン：323 人

11. 受託研修

教師研修

博報財団世界の子ども日本語ネットワーク推進
第10回海外教師日本研修：12 各国・地域、14 人
博報財団第13回日本研究フェローシップ：1 各国、1 人
日露青年交流センター日本語教師派遣事業赴任前研修：1 各国、18 人
ニュージーランド日本語教師訪日研修：1 各国、7 人

学習者研修

キャンボンベトナム日本語学習者訪日研修：1 各国、1 人
関西日本ラトビア協会日本語学習者訪日研修：1 各国、1 人
大阪ガス国際交流財団インドネシア大学生日本語研修：1 各国、2 人
チョンブリー学院訪日研修：1 各国、14 人
ニュージーランドカラム高校訪日研修：1 各国、27 人
ニュージーランドヘレタウング高校訪日研修：1 各国、13 人

12. その他の研修

大阪府 JET 青年来日時研修：6 各国、47 人
全国 JET 日本語教授法研修：10 各国、37 人
海外で日本語を教える人のためのスキルアップ研修：1 各国、18 人

13. 各センターの図書館

日本語国際センター 来館者数：16,757 人
関西国際センター 来館者数：13,631 人

1. 日本研究機関支援

(1) 日本研究基盤整備

(アジア)

韓国：翰林大学、高麗大学、ソウル大学日本研究所、ソウル大学アジア言語文明学部

中国：浙江工商大学、南開大学、復旦大学

台湾：政治大学

インドネシア：インドネシア大学

タイ：チェンマイ大学

ベトナム：ベトナム国家大学付属人文社会科学大学ハノイ校

マレーシア：マラヤ大学

インド：ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部、ジャワハルラル・ネルー大学言語・文学・文化学部、デリー大学、ビシュババラティ大学、プレジデンシー大学

バングラデシュ：ダッカ大学

(米州)

米国：アイオワ大学、アリゾナ州立大学、ウェズリアン大学、カリフォルニア大学アーバイン校、シラキュース大学、ノースウェスタン大学、ノースジョージア大学、ピッツバーグ大学、南メソジスト大学

(欧州)

ペラルーシ：ペラルーシ国立大学

ロシア：サンクトペテルブルク大学、極東連邦総合大学地域・国際学術院

(中東・アフリカ)

エジプト：カイロ大学

(2) 日本研究プロジェクト助成

24 か国・地域、44件

2. 北京日本学研究中心

(1) 招へい事業

北京外国語大学

訪日研究(修士第32期生)：14人

博士フェロー(第17期生)：5人

北京大学

訪日研修(博士第13期)：20人

(2) 派遣事業

北京外国語大学：7人

北京大学：10人

3. 日本研究フェロースhip

学者・研究者

長期：42人／短期：12人

博士論文執筆：67人

フェロースhip・フォローアップ事業：3 か国、3件

4. 日本研究ネットワーク強化

(1) 主催・共催

第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会

ミャンマー日本研究セミナー

次世代日本研究者 協働研究ワークショップ

アルザス日本研究セミナー

ロシア若手研究者育成

「中央アジア文化交流ミッション」フォローアップ調査

(2) 助成事業：20 か国、24件

5. 知的交流強化

(1) 主催・共催

日中知的交流強化事業

グループ招へい：1件、個人招へい：10件

日独シンポジウム

中東・北アフリカグループ招へい：3 か国、7人

欧州評議会国際会議「インターカルチュラル・シティ」：日本から 3人派遣

(2) 知的交流会議助成：21件

(3) 地域リーダー・若者交流助成：18件

6. 現代日本理解特別プログラム

(アジア・大洋州)

オーストラリア国立大学

(米州)*

イエール大学

ジョンズ・ホプキンス大学

ハーバード大学

スタンフォード大学

インディアナ大学

(欧州)

ロンドン大学キングスカレッジ

INALCO (フランス国立東洋言語文化研究所)・パリ第7大学

*日米センター所管

7. 米国との知的・草の根交流**

(1) 主催事業

安倍フェロースhip

研究者：10人

ジャーナリスト：4人

日米知識人交流事業：4人(招へい2人／派遣2人)

日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム：14人(新規5人／継続9人)

グラスルーツからの日米関係強化派遣(GEN-J)プログラム

日米交流ファシリテーター：7人

日系アメリカ人リーダーシップ・シンポジウム：1件

(2) 助成事業

企画参画助成：8件(新規4件／継続4件)

公募助成：25件(新規15件／継続10件)

ニューヨーク日米センター

小規模助成：29件(草の根交流8件／知的交流6件／教育15件)

日米協会支援：3件(継続3件)

**日米センター所管

1. “日本語パートナーズ” 派遣事業

インドネシア：167人
タイ：128人
ベトナム：85人
マレーシア：42人
フィリピン：14人
ミャンマー：6人
カンボジア：7人
シンガポール：1人
ブルネイ：1人
ラオス：3人
中国：93人
台湾：88人
計635人 / 526校

日本語専門家派遣：5か国、9ポスト*
カウンターパート日本語教師訪日研修：3か国、83人*
タイ中等教育教員訪日スカラシップ：1か国、14人*

2. アジア・市民交流事業

アジア映画研究会
混成アジア映画研究会
「マッチフラッグプロジェクト」(報告書作成)
「HANDS! -Hope and Dreams- Project」
ふれあいの場(チェンマイ、ヤンゴン)
日メコン首脳会談にあわせた漆工芸展示
助成事業：42件

3. アジア・フェロウシップ：22件

4. アジア・リーダー交流

「...and Action! Asia#05 -映画・映像専攻学生交流プログラム-」
「ワーキングタイトル2018-2019 上映企画・実践ワークショップ」
舞台芸術プレゼンター招へい事業
「アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)」
「日本・ASEAN メディア・フォーラム2018」(バンコク)
アジア・文化人招へいプログラム
Mattie Do (ラオス)
Lam Peng Er (シンガポール)
「サマー・インスティテュート2018」**
アジア研究学会(AAS)年次大会参加者への旅費支援**
アジア研究学会(AAS)アジア大会参加者への旅費支援**
助成事業：7件**

5. アジア・文化創造協働事業

「Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s (アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代)」
メディアアート交流事業
(連続フォーラム「アートがつなぐサイエンス・テクノロジー・倫理・美学」、パートナープログラム「Indonesia Netaudio Festival 2018-Sharing Over Netizen Explosion」(展覧会「Internet of (No)Things- 遍在するネットワークと芸術の介入」、ライブコンサートほか)、音楽プログラム「Bordering Practice 2019 ジャカルタ・ホーチミン・ハノイツアー」、「第3回メディアアート国際シンポジウム『インターネット以降の文化形成-創作、発信、ネットワーク-』」)

Condition Report 「呼吸する地図たち」
アジア美術関連アーカイブ
東京国際映画祭をプラットフォームとした映画交流事業
(「CROSSCUT ASIA #05 『ラララ♪東南アジア』」他)
「JFF (Japanese Film Festival: 日本映画祭) アジア・パシフィック ゲートウェイ構想」
「Visual Documentary Project 2018」
「Talents Tokyo 2018」
「アジアフォーカス・福岡国際映画祭2018」(フィリピン映画特集)他
『DANCE DANCE ASIA—Crossing the Movements』
「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019」(TPAM 2019)
「伝統のチカラ、芸能のカタチ」
Next Generation: Producing Performing Arts 次世代舞台芸術制作者等育成事業
『NOTES: composing resonance』
劇団 SCOT との共催事業(インドネシア国際共同制作)
平田オリザ 『マニラノート』制作(マニラ在外事業)
岡田利規 タイ国際共同制作
キラリ☆ふじみ共同制作 「新しいアジアの舞台芸術創造のためのプラットフォーム構築プロジェクト(A new platform for performing arts creation in Asia)」
「フェスティバル/トーキョー18『アジアシリーズVol.5 トランス・フィールド MI(X)G』」
APAF-アジア舞台芸術人材育成部門
JFA×Jリーグ連携サッカー交流事業(ASIAN ELEVEN)
「埼玉国際サッカーフェスティバル2019」
柔道交流事業「日アセアン JITA-KYOEI PROJECT」
「Innovative City Forum 2018」
トラン・アン・ユン監督上映会
「文化遺産国際協力コンソーシアム」シンポジウム
「Sanriku-Asian Network Project」(三陸国際芸術祭)
「三陸国際芸術祭2019」連携企画「三陸×アジア」つながるプロジェクト
「ダイバーシティをはぐくむ EYES プロジェクト」
「東南アジア・ムスリム青年との対話(TAMU/Talk with Muslims series)」
「アジアの価値観と民主主義」
「アジア・ユーロ ポリシーダイアログ(AEPD)」
「Earth Manual Project」
アジアにおけるソーシャル・イノベーション人材交流プログラム(SOIL)
アンコール・ワット西参道保存修復支援事業
ASEAN オーケストラ支援事業***
ベトナム演劇基盤整備事業(KAAT)***
東南アジア近現代建築保存プロジェクト***
日本・アジア学生パッケージデザイン交流事業(ASPac)***
東北復興・アジアデザイン事業(DOOR to ASIA 2018)***
助成事業：48件

*日本語事業グループ所管

**日本研究・知的交流部所管

***文化事業部所管

民間からの資金協力

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。ここでは、2018年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

① 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2018年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」とおりです。

● 事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

● 基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2018年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」とおりです。

② 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1～4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しのご案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2018年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」とおりです。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2018年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」とおりです。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2018年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」とおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。

寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

● 特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額

(特別損金算入限度額)

(資本金等の額 × 当期の月数 / 12 × 0.375% + 所得の金額 × 6.25%) × 1/2

● 通常の寄附金の損金算入限度額

(資本金等の額 × 当期の月数 / 12 × 0.25% + 所得の金額 × 2.5%) × 1/4

(2) 個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2018年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	46件	830,399,960円
賛助会	33件	6,850,000円
事業費への寄附	11件	76,186,960円
民間出えん金	2件	3,000円
特定寄附金	25件	314,515,364円 ^(注2)

(注2) うち、302,776,707円及び2017年度より繰り越した特定寄附金27,761,295円を、11事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(39,499,952円)は、4件の事業に対する助成金として2019年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2018年度末までの累計で、一般寄附金として約29億4,271万円、特定寄附金として約679億4,321万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2018年度に総額約1億691万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいております。

2018年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者（（ ）内は寄附対象事業、順不同、敬称略）

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（「ジャポニスム 2018」）
東京瓦斯株式会社（東南アジア日本語教育支援事業）
日本たばこ産業株式会社（ロシア・ベラルーシの大学への日本語・
日本研究支援、DRUM TAO『舞響〜DRUMHEART』ロシア公演、「日
本・アジア学生パッケージデザインコンペティション」インドネシ
ア予選）
株式会社ブラビス・インターナショナル（日本・アジア学生パッケー
ジデザイン交流）
サン・インベストメント株式会社（「第59回外国人による日本語弁
論大会」）
Paul Harvey（日中交流センター事業）
久米 真 ほか個人1人（事業費全般）

民間出えん金寄附者（敬称略）

古澤 英樹 ほか個人1人

民間出えん金による支援事業

（寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付
する冠寄附の例）
高砂熱学工業・日本研究フェローシップ
（寄附者は高砂熱学工業株式会社）
渡辺健基金・日本研究フェローシップ
（寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員
渡辺健氏のご遺族）

賛助会会員（2018年度末現在、50音順、敬称略）

(1) 特別会員

SMBC 日興証券（株）／松竹（株）／（株）みずほ銀行／（株）三菱
UFJ 銀行

(2) 普通会員

（公財）あすか財団／（一財）池坊華道会／出光興産（株）／（一財）NHK
インターナショナル／カトーレック（株）／（株）講談社／（公財）講道
館／（株）国際サービス・エージェンシー／（学）駒澤大学／（一財）今
日庵／（株）資生堂／（一財）少林寺拳法連盟／スターレーン航空サービ
ス（株）／（一財）全日本剣道連盟／（株）第一成和事務所／ダイキン工
業（株）／大和証券（株）／東京ビジネスサービス（株）／（株）日本折紙協
会／（一社）日本映画製作者連盟／（一財）日本国際協力センター／野
村證券（株）／（株）日立製作所／富士ゼロックス（株）／（株）凡人社／
（株）三井住友銀行／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券（株）／森ビル
（株）／ほか法人1社

特定寄附金による支援事業（（ ）内は事業実施国、順不同）

アジア女子大学奨学金プログラム（バングラデシュ）／CWAJ 女性
のための国際文化交流奨学金制度（日本）／インディアナ大学ジャ
パンスカラシップ（米国）／ミュージック・フロム・ジャパン 2019
アーティスト・レジデンス（米国）／日米研究インスティテュート
（米国）／長島・大野・常松法律事務所：日本法・文化プログラム（米
国）／日中ジャーナリスト交流会議（日本）／エルエスエイチアジア
奨学金（日本）／「第24回ホノルル フェスティバル」（米国）／バル
カン室内管弦楽団公演2018（日本）／バルカン室内管弦楽団公演
2019（日本）／四天王寺ワッソ（日本）／ポートランド日本庭園拡
張計画（米国）

寄附金以外の主な支援例（順不同、敬称略）

（公財）石橋財団（現代美術キュレーター等交流事業、日本美術リサー
チフェローシップ、及び「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美
術展日本館展示」への寄附助成）
（一社）尚友倶楽部（フエ外国語大学及びダナン外国語大学への日本
語教材・購送、及びベトナム日本研究学生・若手研究者 日本語・
日本文化訪日研修への助成）
（公財）かめのり財団（「ベトナム中学生日本語キャンプ」への助成及
び「にほんご人フォーラム」の共催等）

（注5） 支援例について、詳しくは国際交流基金ウェブサイトの「寄附者等一覧」に掲
載しています。

<https://www.jpff.go.jp/j/about/support/donation/list.html>

貸借対照表 (2019年3月31日)

(単位：円)

資産の部		
I 流動資産		
現金及び預金		14,374,986,893
有価証券		5,252,992,291
前払金		47,794,081
前払費用		130,794,866
未収収益		191,831,091
未収金		640,317,598
その他の流動資産		34,769,247
流動資産合計		20,673,486,067
II 固定資産		
1 有形固定資産		
建物	13,479,370,370	
減価償却累計額	△ 6,256,279,319	7,223,091,051
構築物	311,969,911	
減価償却累計額	△ 290,764,466	21,205,445
機械装置	57,719,952	
減価償却累計額	△ 20,105,538	37,614,414
車両運搬具	113,563,070	
減価償却累計額	△ 79,944,285	33,618,785
工具器具備品	1,390,815,331	
減価償却累計額	△ 1,079,086,467	311,728,864
美術品	534,311,528	
減価償却累計額	△ 15,588,187	518,723,341
土地		63,515,000
建設仮勘定		20,129,253
有形固定資産合計		8,229,626,153
2 無形固定資産		
ソフトウェア		263,726,614
電話加入権		441,000
ソフトウェア仮勘定		70,824,240
無形固定資産合計		334,991,854
3 投資その他の資産		
投資有価証券		52,960,502,630
長期預金		4,800,000,000
敷金保証金		864,000,010
投資その他の資産合計		58,624,502,640
固定資産合計		67,189,120,647
資産合計		87,862,606,714
負債の部		
I 流動負債		
運営費交付金債務		5,271,200,509
預り補助金等		3,895,550,600
預り寄附金		70,888,083
未払金		1,156,199,880
未払費用		2,232,372
前受金		9,000,000
預り金		8,877,223
前受収益		17,088,154
リース債務		6,959,411
為替予約		11,255,967
引当金		
賞与引当金	15,980,756	15,980,756
資産除去債務		9,807,170
流動負債合計		10,475,040,125
II 固定負債		
資産見返負債		
資産見返運営費交付金	1,299,314,223	
資産見返補助金等	2,477,679	
資産見返寄附金	3,540,956	
建設仮勘定見返運営費交付金	20,129,253	
ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	70,824,240	1,396,286,351
長期預り補助金等		1,667,809,142
長期リース債務		2,179,174
資産除去債務		130,788,447
固定負債合計		3,197,063,114
負債合計		13,672,103,239
純資産の部		
I 資本金		
政府出資金		77,729,095,177
資本金合計		77,729,095,177
II 資本剰余金		
資本剰余金		△ 130,205,692
損益外減価償却累計額 (△)		△ 6,174,290,761
損益外減損損失累計額 (△)		△ 126,000
損益外利息費用累計額 (△)		△ 8,574,768
民間出えん金		908,006,787
資本剰余金合計		△ 5,405,190,434
III 利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		659,690,501
当期末処理損失		1,218,164,198
(うち当期総損失)		1,285,195,704
利益剰余金合計		1,877,854,699
IV 評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益		△ 11,255,967
評価・換算差額合計		△ 11,255,967
純資産合計		74,190,503,475
負債純資産合計		87,862,606,714

損益計算書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位：円)

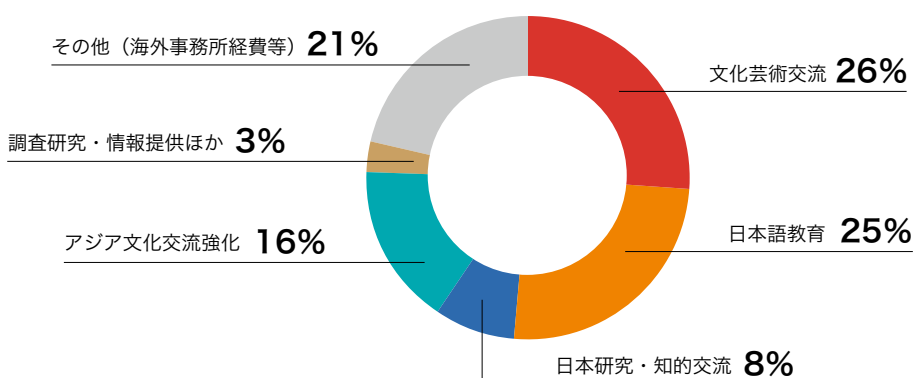
経常費用		
文化芸術交流事業費	5,353,529,020	
日本語教育事業費	5,261,619,047	
日本研究・知的交流事業費	1,734,264,634	
調査研究・情報提供等事業費	524,804,192	
アジア文化交流強化事業費	3,353,508,685	
在外事業費	3,957,351,053	
文化交流施設等協力事業費	313,398,082	
一般管理費	1,443,659,929	
財務費用	712,777	
経常費用合計		21,942,847,419
経常収益		
運営費交付金収益	13,042,889,782	
運用収益	894,854,522	
受託収入	20,744,085	
補助金等収益	3,348,241,926	
寄附金収益		
寄附金収益	198,059,320	
特定寄附金収益	302,776,707	500,836,027
資産見返戻入		
資産見返運営費交付金戻入	298,743,143	
資産見返補助金等戻入	2,335,799	
資産見返寄附金戻入	991,855	302,070,797
財務収益		
受取利息	541,666	541,666
雑益		
日本語能力試験受験料等収益	1,254,011,544	
その他の雑益	1,107,798,012	2,361,809,556
経常収益合計		20,471,988,361
経常損失		1,470,859,058
臨時損失		
固定資産除却損	2,264,789	2,264,789
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入	2,343,434	
固定資産売却益	2,531,898	4,875,332
当期純損失		1,468,248,515
前中期目標期間繰越積立金取崩額		2,753,444,219
当期総利益		1,285,195,704

利益の処理に関する書類 (2019年6月28日)

(単位：円)

I 当期末処分利益		1,218,164,198
当期総利益	1,285,195,704	
前期繰越欠損金	△ 67,031,506	
II 利益処分額		
積立金	1,218,164,198	
	1,218,164,198	1,218,164,198

2018年度事業分野別支出構成比



世界の 拠点紹介



海外事務所

- 1 イタリア ローマ日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Rome
URL: <https://www.jfroma.it/>
(イタリア・日本語)
- 2 ドイツ ケルン日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Cologne
URL: <https://www.jki.de/>
(ドイツ語・日本語)
- 3 フランス パリ日本文化会館**
The Japan Cultural Institute in Paris
URL: <https://www.mcjp.fr/>
(フランス語・日本語)
- 4 韓国 ソウル日本文化センター**
The Japan Foundation, Seoul
URL: <https://www.jpf.or.kr/>
(韓国語・日本語)
- 5 中国 北京日本文化センター**
The Japan Foundation, Beijing
URL: <https://www.jpfbj.cn/>
(中国語)
- 6 インドネシア ジャカルタ日本文化センター**
The Japan Foundation, Jakarta
URL: <https://www.jpf.or.id/>
(インドネシア語・英語・日本語)
- 7 タイ バンコク日本文化センター**
The Japan Foundation, Bangkok
URL: <https://www.jfbkk.or.th/>
(タイ語・日本語・英語)
- 8 フィリピン マニラ日本文化センター**
The Japan Foundation, Manila
URL: <https://www.jfmo.org.ph/>
(英語)
- 9 マレーシア クアラルンプール日本文化センター**
The Japan Foundation, Kuala Lumpur
URL: <https://www.jfk.org.my/>
(英語)
- 10 ミャンマー ヤンゴン日本文化センター**
The Japan Foundation, Yangon
URL: <https://yg.jpf.go.jp>
(ミャンマー語・英語)
- 11 インド ニューデリー日本文化センター**
The Japan Foundation, New Delhi
URL: <https://www.jfindia.org.in/>
(英語)
- 12 オーストラリア シドニー日本文化センター**
The Japan Foundation, Sydney
URL: <https://www.jpf.org.au/>
(英語)
- 13 カナダ トロント日本文化センター**
The Japan Foundation, Toronto
URL: <https://www.jftor.org/>
(英語)
- 14 米国 ニューヨーク日本文化センター
ニューヨーク日米センター**
The Japan Foundation, New York
URL: <https://www.jfny.org/>
(英語)
- 15 米国 ロサンゼルス日本文化センター**
The Japan Foundation, Los Angeles
URL: <https://www.jflac.org/>
(英語)
- 16 メキシコ メキシコ日本文化センター**
The Japan Foundation, Mexico
URL: <https://www.fjmex.org/>
(スペイン語)
- 17 ブラジル サンパウロ日本文化センター**
The Japan Foundation, São Paulo
URL: <https://fjsp.org.br/>
(ポルトガル語)
- 18 英国 ロンドン日本文化センター**
The Japan Foundation, London
URL: <https://www.jpf.org.uk/>
(英語)
- 19 スペイン マドリード日本文化センター**
The Japan Foundation, Madrid
URL: <https://www.fundacionjapon.es/>
(スペイン語・日本語)
- 20 ハンガリー ブダペスト日本文化センター**
The Japan Foundation, Budapest
URL: <https://www.japanalapitvany.hu/>
(ハンガリー語・日本語・英語)
- 21 ロシア 全ロシア国立外国文献図書館
「国際交流基金」文化事業部
(モスクワ日本文化センター)**
The Japanese Culture Department
"Japan Foundation" of the All-Russia State
Library for Foreign Literature
URL: <https://www.jpfmw.ru/>
(ロシア語・日本語)
- 22 エジプト カイロ日本文化センター**
The Japan Foundation, Cairo
- 23 ベトナム ベトナム日本文化交流センター**
The Japan Foundation Center for
Cultural Exchange in Vietnam
URL: <https://jpf.org.vn/>
(ベトナム語・日本語・英語)
- 24 カンボジア アジアセンタープノンペン連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Phnom Penh Liaison Office
URL: <https://jfpfn.org/>
(英語)
- 25 ラオス アジアセンタービエンチャン連絡事務所**
The Japan Foundation Asia Center,
Vientiane Liaison Office
URL: <https://jfacvt.la/>
(ラオス語・英語)

国内附属機関・支部

日本語国際センター

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36

TEL. 048-834-1180 FAX. 048-834-1170

<https://www.jpf.go.jp/j/urawa/>

■ 図書館

TEL: 048-834-1185 FAX: 048-830-1588

URL: https://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/j_library.html

関西国際センター

〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート
北3-14

TEL: 072-490-2600 FAX: 072-490-2800

URL: <https://kansai.jpf.go.jp>

■ 図書館

TEL: 072-490-2605 FAX: 072-490-2805

URL: <https://kansai.jpf.go.jp/ja/library/>

京都支部

〒606-8436 京都市左京区粟田口鳥居町 2-1

京都市国際交流会館3階

TEL: 075-762-1136 FAX: 075-762-1137

URL: <https://www.jpf.go.jp/j/world/kyoto.html>

諮問委員会等 (2018年度)

以下の方々に、委員としてご協力いただいています。
(50音・アルファベット順、敬称略、所属・肩書きは2018年度のもの)

国際交流基金の運営に関する諮問委員会

- 五百旗頭 真**
兵庫県立大学理事長／ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長
- 池内 恵**
東京大学先端科学技術研究センター教授
- 川島 真**
東京大学大学院総合文化研究科教授
- 久保 文明**
東京大学大学院法学政治学研究所教授
- 迫田 久美子**
広島大学副理事・森戸国際高等教育学院特任教授
- 建畠 哲**
多摩美術大学学長／埼玉県立近代美術館館長
- 千野 境子**
産経新聞客員論説委員
- 永井 多恵子**
せたがや文化財団理事長／国際演劇協会
日本センター会長
- 細谷 雄一**
慶應義塾大学法学部教授
- 宮本 亜門**
演出家
- 渡辺 靖**
慶應義塾大学環境情報学部教授

日本研究米国際諮問委員会 (American Advisory Committee for Japanese Studies)

- E. Taylor Atkins**
北イリノイ大学 歴史学／音楽
- William Bodiford**
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 宗教学
- Michael Bourdaghs**
シカゴ大学 文学
- Julie Nelson Davis**
ペンシルバニア大学 美術史
- Andrew Gordon**
ハーバード大学 歴史学
- Eiko Ikegami**
ニュースクール大学 社会学
- R. Keller Kimbrough**
コロラド大学ボルダー校 文学
- Patricia Maclachlan**
テキサス大学オースティン校 政治学
- Laura Miller**
ミズーリ大学セントルイス校 人類学
- Mari Noda**
オハイオ州立大学 言語学／言語教育学
- Morgan Pitelka**
ノースカロライナ大学チャペルヒル校 歴史学
- Ann Sherif**
オーバリン大学 文学
- Mike Smitka**
ワシントン・アンド・リー大学 経済学
- Steven Vogel**
カリフォルニア大学バークレイ校 政治学
- Christine Yano**
ハワイ大学マノア校 人類学／カルチュラル・スタディーズ

パリ日本文化会館運営審議会

- フランス側委員**
- Louis Schweitzer**
日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表
- Jean-Louis Beffa**
サンゴバン名誉会長
- Augustin Berque**
フランス国立社会科学高等研究院退任教授
- Philippe Faure**
元駐日フランス大使
- André Larquié**
シャトレ劇場名誉理事長
- Jean Maheu**
パリ市立劇場名誉理事長
- Jean-Robert Pitte**
フランス地理学会会長

- Christian Sautter**
元経済・財政・産業大臣
- Diane de Selliers**
ディアヌ・ド・セリエ出版社長

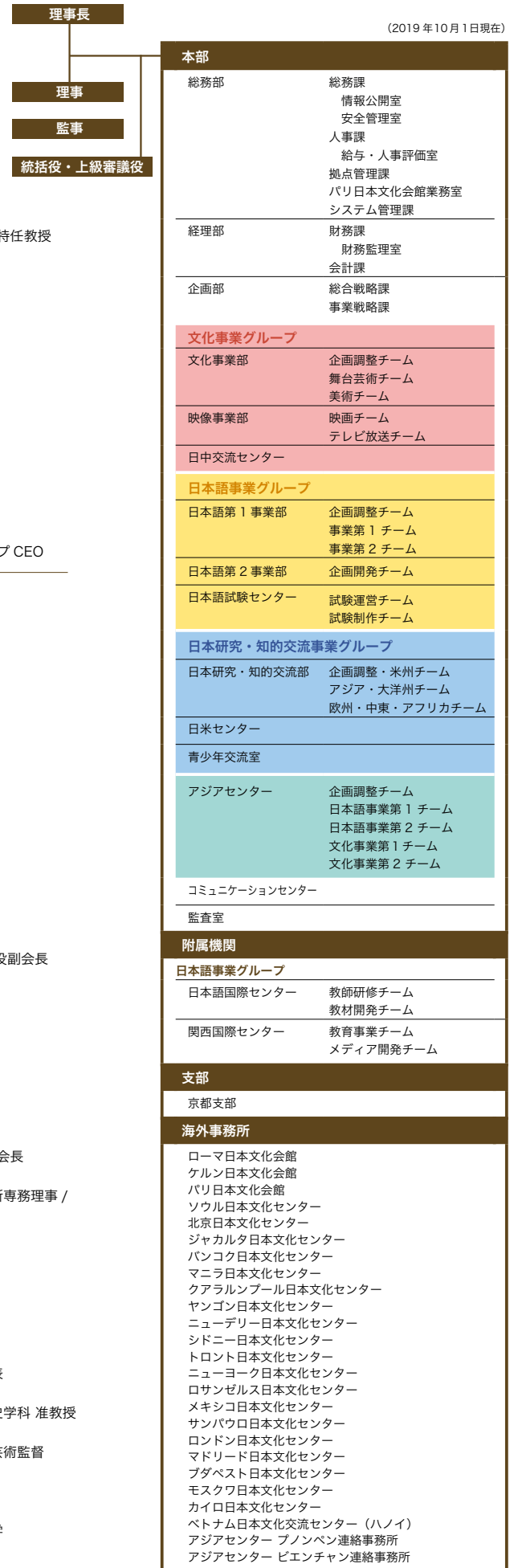
- 日本側委員**
- 松浦 晃一郎**
元ユネスコ事務局長
- 伊東 順二**
美術評論家／東京藝術大学社会連携センター特任教授
- 萩野 アンナ**
作家／慶應義塾大学文学部教授
- 柏倉 康夫**
放送大学名誉教授
- 大八木 成男**
帝人株式会社相談役
- 酒井 忠康**
世田谷美術館館長
- 辻原 登**
作家／神楽川近代文学館長
- 西垣 通**
東京大学名誉教授／東京経済大学教授
- 早間 玲子**
建築家
- 堀場 厚**
株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO

国際交流基金アジアセンター事業 諮問委員会

- 日本側委員**
- 石井 恵理子**
東京女子大学教授、日本語教育学会会長
- 井上 弘**
(株)TBSテレビ相談役
- 猪子 寿之**
チームラボ(株)代表取締役
- 加藤 雅也**
俳優
- コシノ ジュンコ**
デザイナー
- 迫本 淳一**
松竹(株)代表取締役社長
- 知花 くらら**
モデル／国連世界食糧計画(WFP)日本大使
- 鳥井 信吾**
サントリーホールディングス(株)代表取締役副会長
- 長谷川 三千子**
埼玉大学名誉教授
- 宮廻 正明**
東京藝術大学名誉教授／日本画家
- 山内 昌之(座長)**
東京大学名誉教授

- ASEAN側委員**
- Dato Paduka Hamdillah H A Wahab**
(ブルネイ)ブルネイ日本友好協会(BJFA)会長
- Pou Sothirak**
(カンボジア)国立カンボジア平和協力研究所専務理事／カンボジア王国政府顧問
- Riri Riza**
(インドネシア)映画監督
- Phonethepvixay Saythilath**
(ラオス)歌手／音楽会社経営
- Datuk Lat**
(マレーシア)漫画家
- Lahpai Seng Law**
(ミャンマー)メッタ開発財団創始者・前代表
- Ambeth R. Ocampo**
(フィリピン)アテネオ・デ・マニラ大学歴史学科 准教授
- Goh Ching Lee**
(シンガポール)カルチャーリンク創設者・芸術監督
- Kitti Prasirtsuk**
(タイ)タマサート大学副学長(国際担当)
- Nguyen Van Chinh**
(ベトナム)ハノイ国家大学人文社会科学大学
人類学部学部長 准教授

組織図



ご案内

ウェブサイト、ソーシャルメディア

国際交流基金の事業、イベント等の最新情報、公募プログラム申請情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を国際交流基金ウェブサイト上で発信しています。

■国際交流基金ウェブサイト

<https://www.jpf.go.jp/>



国際交流基金公式ソーシャルメディア

公式 Facebook



<https://www.facebook.com/TheJapanFoundation>

公式 Twitter



<https://twitter.com/japanfoundation>

ウェブマガジン

■をちこち Magazine

<https://www.wochikochi.jp/>



国際交流基金ライブラリー

<https://www.jpf.go.jp/j/about/jfic/lib/index.html>

公式 Facebook



<https://www.facebook.com/JFICLibrary>

事業別ウェブサイト

【文化芸術交流】

[舞台芸術情報「Performing Arts Network Japan」](#)

[翻訳推薦著作リスト「Worth Sharing」](#)

[日本の出版物に関する書誌情報誌「Japanese Book News」](#) (英語)

[日本文学翻訳書誌検索](#)

[日本映画データベース](#)

【日中交流センター】

[心连心ウェブサイト](#)



【日本語教育】

[海外日本語教育機関調査](#)

[日本語教育機関検索](#)

[日本語教育国・地域別情報](#)

[『国際交流基金日本語教育紀要』](#)

[日本語能力試験 \(JLPT\)](#)



[国際交流基金日本語基礎テスト](#)



【日本語教師支援】

[「世界で日本語を教えよう！」](#)

[「みんなの教材サイト」](#)

[「みんなの Can-do サイト」](#)

[「JF 日本語教育スタンダード」](#)

[「日本語教育通信」](#)

【日本語学習者支援 (e ラーニング)】

●「JF にほんご e ラーニング みなと」

●「ひろがる もっといろんな日本と日本語」

●「NIHONGO e な」

(iOS 版 <https://nihongo-e-na.com/ios/>)

(Android 版 <https://nihongo-e-na.com/android/>)

[「日本語でケアナビ」](#)

[「アニメ・マンガの日本語」](#)

[WEB 版「エリンが挑戦！ にほんごできます。」](#)

[「エリンと挑戦！ にほんごテスト」](#)

[「まるごと 日本のことばと文化」](#)

[「まるごと+ \(まるごとプラス\)」](#)

[「まるごとのことば」](#)

[HIRAGANA/KATAKANA Memory Hint](#)

[KANJI Memory Hint 1,2&3](#)

【日米センター】

[日米センター](#)



The Japan Foundation
Center for Global Partnership

[安倍フェロウシップ・プログラム](#)

[JOI プログラム](#)

[日米知識人交流事業](#)

[日米文化教育交流会議 \(CULCON\)](#)

【アジアセンター】

[アジアセンター公式ウェブサイト](#)



[アジアセンター公式 facebook](#)



[アジアセンター公式 Twitter](#)



[「日本語パートナーズ」派遣事業 \(公式 Facebook\)](#)



JAPAN FOUNDATION

